

第 1 盛岡市の概要

(1) 盛岡市のプロフィール

豊かな森に囲まれ、あふれ出る清らかな水に恵まれた盛岡。雄大な岩手山の裾野に広がるこの土地は、旧石器時代から人々が暮らし、生活の跡を残しています。縄文時代にはいくつもの集落が点在し、森や野原の恵みと海からの恵みが交わる交易地としてにぎわいが生まれました。人々の暮らしに大きな変化が起きたのは平安時代です。803年(延暦22年)、征夷大將軍坂上田村麻呂が北上川西岸に志波城を築き、新たな開拓の歴史は始まり、朝廷による東北経営の拠点となりました。

やがて、戦国時代になると、志和郡(紫波町)を拠点とする斯波氏と三戸(青森県三戸町)を拠点とする南部氏の二大勢力が覇権を争い、この戦いに勝利した南部家26代南部信直が、豊臣秀吉から岩手郡を含む7郡の本領を安堵され、盛岡藩が誕生しました。盛岡藩の2代藩主利直の時代に城下町の建設が大きく進展します。町割りには、城の周りに二重の外堀を巡らせ、上方や江戸から迎え入れた商人や職人が町を囲み、その外側に三戸から移ってきた武士の屋敷や寺院を配置したもので、新しい時代の軍事や商業、交通などに対応する環状市街地が形成されました。これが、現在でも盛岡の中心市街地の基本的な骨格となり、城下町の情緒と風格が「盛岡らしさ」として残っています。

その後、明治時代の廃藩置県により、盛岡藩は、盛岡県から岩手県に変わりました。そして1889年(明治22年)の市町村制施行により、全国39都市の一つとして人口2万9190人、面積4.47平方キロメートルの県都盛岡市が誕生しました。

近年の盛岡市は、1989年(平成元年)に市制施行100周年を迎え、1992年(平成4年)4月には南に隣接する都南村と、2006年(平成18年)1月には北に隣接する玉山村と合併を果し、人口約30万人、面積886.47平方キロメートルの新生盛岡市となりました。また、2008年(平成20年)4月には中核市へと移行し、県から民生や保健衛生、環境、都市計画などの行政分野における事務の移譲を受け、新たなスタートを切り、現在に至っています。

今後も、さらに自立性を高め、新たな課題にも対処するため、健全な自治体経営を推進するとともに、北東北をリードし、要となる拠点都市としてさらなる発展を目指していきます。

(2) 盛岡市の歴史

都市としての盛岡の歩みは、1597年、26代南部家当主信直の盛岡城築城に始まります。城下町としての街並みが整い、各地との往来も盛んになって、領内の金、馬、海産物を得て政治・経済の中心地として栄えました。

新しい時代を迎えた明治維新(1868年)によって南部藩は盛岡県、そして岩手県へと変遷しました。

1874年(明治7年)には藩政の象徴であった城郭も取り壊されましたが、城跡は岩手公園となり、今に残る石垣は古い街並みとともに盛岡の長い歴史と文化を私たちに伝えていきます。

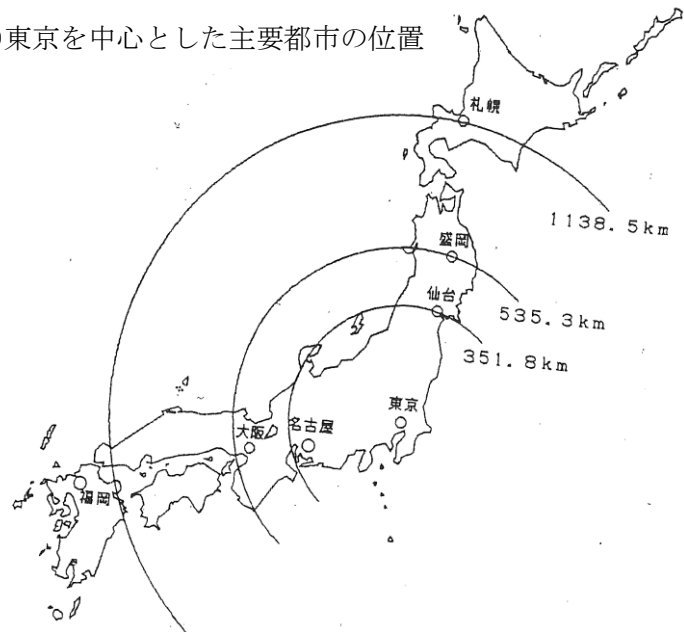
1889年(明治22年)岩手県の県庁所在地として誕生以来、近代都市として一世紀の歴史を刻んだ盛岡市は、1992年(平成4年)には人口約4万人の隣村「都南村」と、また2006年(平成18年)には石川啄木のふるさと玉山村と合併を実現、長い伝統と美しい自然の調和した北東北の拠点都市にふさわしい新たな発展を遂げています。

(3) 位置

東北本線の盛岡－東京間の距離は 535.3キロで東京－大阪間とほぼ同じ距離です。

また、東京－札幌間のほぼ中間地点に当たります。

○東京を中心とした主要都市の位置



(4) 広域市町圏

盛岡市の広域市町圏は、岩手県の西北部に位置し、その広がりには県総面積の23.8%にあたる広大な面積を有し、本県最大の圏域となっており、3市5町で構成されています。

平成28年3月には、みちのく盛岡広域連携都市圏を形成し、各市町の特長ある取組と、広域圏の強みを生かしながら、連携してまちづくりを進めています。

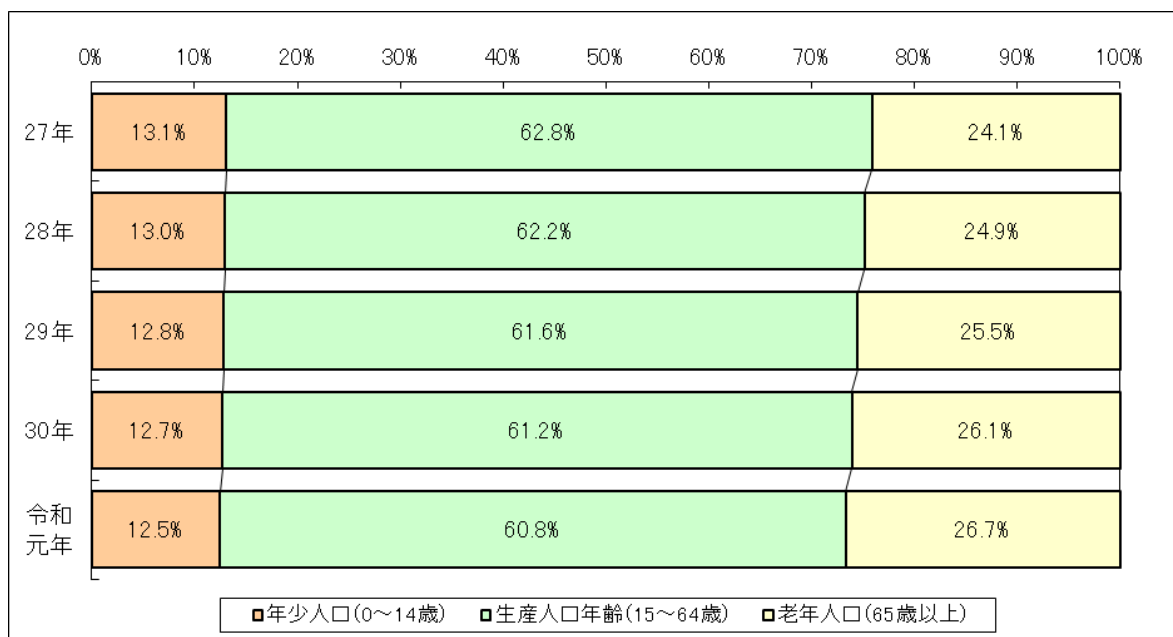


(5) 盛岡市の人口（住民基本台帳登録人口）

○ 住民基本台帳登録人口（毎年9月末現在）

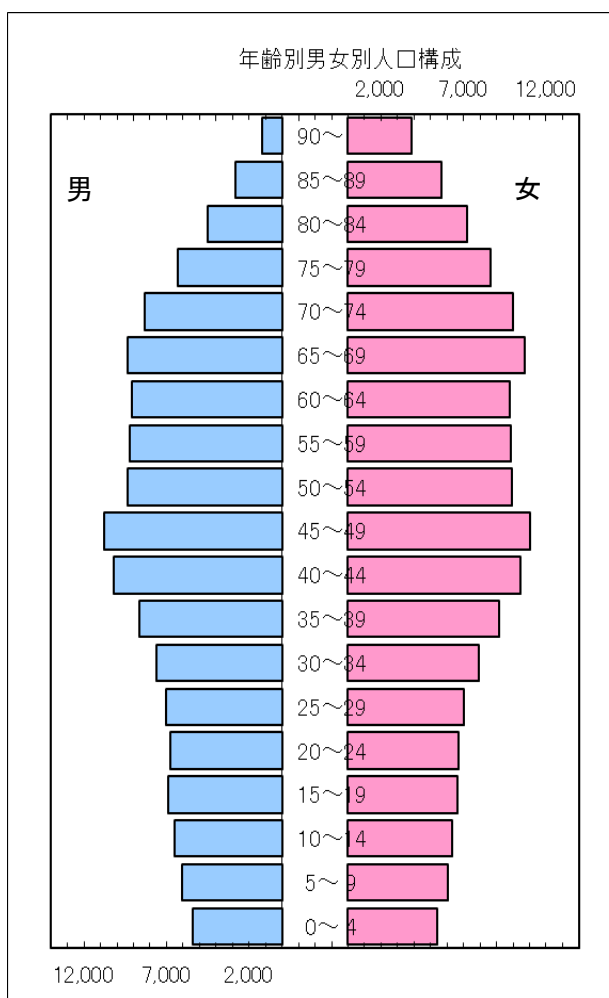
年	総計	男	女	世帯数
平成27年	294,091	138,930	155,161	132,973
平成28年	293,130	138,533	154,597	133,993
平成29年	291,994	137,891	154,103	134,659
平成30年	290,233	137,046	153,187	135,425
令和元年度	288,618	136,266	152,352	135,981

○年齢別人口構成割合の年次推移（毎年9月末現在）



○ 年齢別男女別人口構成（令和元年9月末現在）

区分 年齢	男	女	総数
0～4	5,436	5,400	10,836
5～9	6,057	6,025	12,028
10～14	6,508	6,300	12,808
15～19	6,925	6,651	13,576
20～24	6,791	6,690	13,481
25～29	7,043	7,043	14,086
30～34	7,610	7,920	15,530
35～39	8,640	9,138	17,778
40～44	10,225	10,459	20,684
45～49	10,763	11,002	21,765
50～54	9,387	9,910	19,297
55～59	9,248	9,856	19,104
60～64	9,083	9,828	18,911
65～69	9,372	10,730	20,102
70～74	8,342	10,021	18,363
75～79	6,292	8,625	14,917
80～84	4,489	7,207	11,696
85～89	2,837	5,672	8,509
90～	1,218	3,875	5,093
総計	136,266	152,352	288,618



(6) 市章と市のシンボル

盛岡市の市章



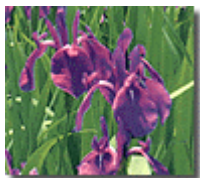
盛岡市の市章は、菱（ひし）形二つを直角に交差させたものです。

この紋章は、藩政時代から伝わる陣笠やかごなどにも用いられています。

菱形は南部家が甲斐源氏の一族であったことを表し、一方、折りづるを図案化したようにも見えることから、南部家の紋章である”つる”を象徴しているという説もあります。

市章としての制定時期ははっきりしませんが、1906年に定められた「市吏員用提灯其ノ他ノ徽章ノ件」という規定に、職員用のちょうちんなどにこの紋章を使うようにと定められています。市旗は1968年11月に正式に定められました。

盛岡市の花「カキツバタ」



さわやかな初夏に紫色の花を咲かせる多年草。

市内各地に自生。

アヤメ科。

盛岡市の鳥「セキレイ」



市街地を流れる中津川などでよく見られるスマートな小鳥。

セキレイ科。

盛岡市の木「カツラ」



山地に自生する落葉樹。

枝が垂れるシダレカツラはこの地方特有の変種。

カツラ科。